

# プログラム 近況報告

2014  
年度

(2013年10月1日  
~2014年9月30日)

ベトナム社会主義共和国  
トアンザオ地域開発プログラム (VNM-194438)

## チャイルド・ストーリー

### 山奥の村のホアンちゃんも 学校に通えるようになりました

トアンザオ地域開発プログラム（以下、ADP）の支援地域で暮らすホアンちゃんは、少数民族（カン族）の農家に生まれました。父親は読み書きができますが、学校に通ったことのない母親は読み書きができません。10年ほど前まで、この地域では女の子が学校に通うなどあり得ないことだったと言います。

しかしADPの支援を受けて、ホアンちゃんたち姉妹は家から10km離れた村の全寮制の学校で勉強しています。ホアンちゃんが住んでいる小さな村は子どもの数が少ないため、村では2年生までの教育しか受けることができないのです。

ADPの支援が始まるまで、農業だけがホアンちゃんたちの家族の生計手段だったため、収穫と収穫の間は食料が不足し、森で採れる野草を食べて飢えをしのいでいたと言います。このような状況を改善するため、両親はADPから近代的農法の指導を受け、作物の種子の支給も受けました。この結果収穫量が増え、余った作物を販売して現金収入を得られるようになりました。また、乳牛生産グループに加入し、ADPから提供された雌牛が産む子牛をグループの中で分け合うようにしました。これまでに両親は乳牛1頭を売り、その代金でホアンちゃんたちを寄宿舎まで送り迎えするためのオートバイを購入しました。

「私は学校が大好きです。ベトナム語が上達するようにもっと勉強して、大きくなったら村の学校の先生になりたいです」と話すホアンちゃん。両親はそんな娘を誇らしく思っています。



平日は寄宿舎から学校に通うホアンちゃん（右、11歳）



ホアンちゃんたちの家族が飼育している乳牛



乳牛を売ったお金で購入したオートバイ。週末になると父親がこのオートバイで寄宿舎に迎えに来てくれます

## 教育プロジェクト

就学前教育が定着し、子どもたちの学習成果が向上しています

5年生の読み方テストの合格率  
42.4% (2013年度)  
→ 48.6% (2014年度)

ベトナム語を母語としな  
い山岳少数民族の子ども

たちの読み書き能力を向上させるため、小学校入学前から幼稚園での就学前教育を通してベトナム語に親しみ、かつ教師が質の高い授業を展開するための活動を行っています。この結果、就学前教育を受ける子どもたちの割合は、2013年度の96%から2014年度は99%に増加しました。幼稚園から小学校に進級した子どもたちの読み書きの能力は向上しつつあります。5年生の読み方のテストを実施したところ、2013年は合格した生徒の割合が42.4%であったのに対して、2014年は48.6%となりました。



幼稚園では教師がベトナム語で教え、少数民族の母親が補助することによって、子どもたちの理解を助けています



グループ内での話し合いや発表を取り入れた「参加型学習法」を導入している小学校での授業の様子

## 子どもの栄養改善プロジェクト

子どもの栄養改善に地域を挙げて取り組んでいます

栄養状態をモニタリングされている  
5歳未満の子どもが  
96% (2013年度) → 99% (2014年度)

栄養不良の5歳未満児の割合を削減するために、栄養クラブは重要な役割を果たしています。栄養クラブには5歳未満の子どもの母親が参加し、子どもの栄養について必要な知識や技術を身に付け、それを日常生活で実践するべく活動しています。メンバーの数は、2013年の340人から、2014年度は400人以上になりました。

郡病院やコミュニン\*の保健センターは、栄養クラブの参加者と連携して子どもたちの栄養状態をモニタリングしています。2014年度は地域のほぼ全員（99%）の子どもたちの身体測定を年2回実施することができました。

もう一つの課題である安全な出産の推進については、地域の妊娠中の女性のうち、産前検診を受けた割合が57%にとどまっています。安全な出産に関する知識をさらに広め、女性の行動の変化につなげるよう引き続き取り組んでいきます。

\*ベトナムの地方行政の最小単位



栄養クラブで身近な食材を使った栄養価の高い食事作りについて学ぶ女性たち



身体測定を受ける5歳未満の子ども

## 指導者育成プロジェクト

ADPが資材を提供し住民が建設工事を行うことで完成した幼稚園の園舎



総コストの64%以上を住民が負担して完成した中学校の食堂

住民自身の主体的な地域づくりが進められています

小規模事業の実施のための住民の貢献度が増加  
25% (2013年度) → 30% (2014年度)

ADPでは、将来の地域づくりの担い手を育成するべく、地域住民が小グループを結成し、自分たちの手で事業を提案、実施するよう支援しています。

収入向上事業には住民たちが特に積極的に取り組んでいます。2013年度、23のコミュニティのうち20で、収入向上の活動が実践されました。そこで2014年度は、住民の主体性がどれだけ育っているかを見るためにADPの関与を最小限にしました。

将来の自立に向けて、ADPでは地域住民ができるだけ自分たちで資金の確保や労働力の提供をして活動を実施するよう奨励しています。地域住民が資金や労働の提供に貢献した事業の割合は、2013年度の25%から2014年度は30%に増加しました。地域のある幼稚園建設事業では、住民自身が費用や資材、労働力など全体の経費の6割以上を提供した例もありました。住民自身の能力と意識がともに向上してきています。

## 支援地域の女性のインタビュー

娘にモン族の伝統的な刺繍を教えています



現金収入を得られるようになり、子どもたちの栄養状態が改善しました

- Q. 家族構成を教えてください。
- A. 夫と5人の子どもの7人家族です。
- Q. 子どもの頃学校に通いましたか。
- A. いいえ。私が子どもの頃は、生活に余裕のある家の男の子しか学校には行けませんでした。

Q. ADPのどのような活動に参加していますか。

- A. 現金収入を得るため、家畜の飼育法についての研修に参加しました。繁殖用に1頭のヤギを支給されて、これまでに6頭が生まれました。そのうちの3頭を売って、上の子が学校に通うための自転車や、子どもたちの衣料品、靴、ノート、ペンなどを買い、学費も払えました。また、栄養クラブでおいしくて栄養価の高い料理を習っています。

Q. 活動に参加してどのような変化がありましたか。

- A. 私のような貧しい母親でも野菜を育て、子どもたちの栄養状態を改善することができました。今は現金収入もあり、安心して子どもたちを学校に通わせることができます。支援がなかったとしたらきっと今でも、そしてこの先もずっと、苦しい生活が続いていたことでしょう。

Q. 今の夢を教えてください。

- A. 私は学校に通えませんでした。私の子どもたちはそれぞれ高等教育を受けて技能を身に付け、人生で成功をおさめて欲しいです。



家族と食事をするチュさん（42歳）

## ADPスタッフ インタビュー

- Q. ADPでどのような仕事をしていますか。
- A. チャイルドを定期的に訪問し、生活環境がきちんと改善しているか、健康であるかを確認しています。また、日本のチャイルド・スポンサーの方々とチャイルドの手紙の交換の橋渡し役をしています。
- Q. 仕事上大変なことは何ですか。
- A. ADPでは、チャイルドとその家族に支援の効果が表れているか定期的に確認したり、チャイルド・スポンサーとチャイルドの間の手紙を遅れないように届けたりする必要がありますが、登録されているチャイルドは1,500人以上もいるため、地域ボランティアの助けなしには訪問しきれません。このため、40人の地域ボランティア（地域内の学校の教師）と連携して活動を行っています。
- Q. ADPで働く原動力となっているものは何ですか。
- A. 貧しい子どもたちとその家族により良い暮らしをもたらすために働けることが、私にとっての大きな喜びです。



トアンザオADPスタッフ チャン・ティ・ニュン（左）  
右は地域ボランティア

## スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



ADPの地域ボランティアから「子どもを中心とした開発」について学ぶ子どもたち

## 会計報告

### 収支計算書

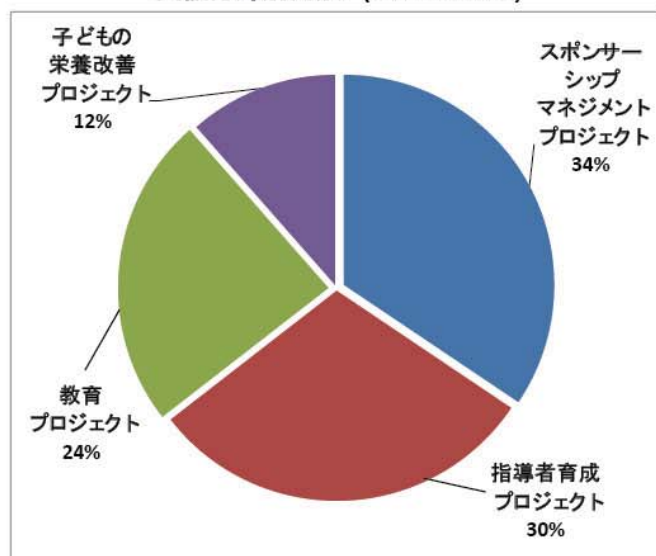
自 2013年 10月1日 至 2014年 9月30日

VNM-194438	
(単位：円)	
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	26,776,426
当期支援額	26,776,426
前期繰越金	-2,154,976
プログラム支援額合計	24,621,450

プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	9,198,661
指導者育成プロジェクト	8,034,771
教育プロジェクト	6,425,748
子どもの栄養改善プロジェクト	3,063,347

プログラム支出額合計	26,722,527
次期繰越額	-2,101,077

### 支援分野別内訳 (VNM-194438)



お問い合わせ  
特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 | FAX：03-5334-5359 | Email：dservice@worldvision.or.jp | ホームページ：www.worldvision.jp  
ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。